



申13号

## 2023年度夏季手当等に関する申し入れ第1回団体交渉を行う！②

### 会社から述べられた現状認識(要旨)

安全・安定輸送の確保と、品質の高いサービスの提供、そのことを通じて日々の業務を遂行いただき、また融合と連携をはじめとした新たな価値創造に果敢にチャレンジしていることに、改めて感謝申し上げる。

- 【業績と足元の動向】○令和4年度期末決算は、お客さまのご利用が回復して増収増益となった。
- 【単体営業利益】○909億円を計上し、期末決算としては3期ぶりの黒字を確保。ただ目標としていた1,000億円には辿り着いていない。
- 【足元の状況】○4月の鉄道営業収入やGWのご利用状況はコロナ前の約9割と、段階的にお客さまのご利用が戻りつつある。
- 【運輸収入の見込み】○コロナ前の約9割に達すると見込んでいる。
- 【今年度通期予想】○単体の営業利益は1,770億円の黒字
- 【有利子負債】○コロナ前と比較し約1兆円増加している。いまだに20年前と同水準。  
○引き続き厳しい財務状況である。改めて認識する必要がある。
- 【経済動向】○月例経済報告(5月)は、景気は緩やかに回復していると上方修正  
○先行きに関しては海外景気の下振れ、また金融資本市場の変動等、油断ならない状況である。  
○企業物価指数は約6%上昇するなど、物価上昇は家計だけでなく企業も含めて及んでいる。
- 【世界経済】○下振れリスクが、以前として予断を許さない状況  
○金融市場の変動等の影響にも注意する必要がある。
- 【中長期的な見通し】○(コロナ5類で)社会経済活動の正常化が進み、お客さまのご利用が増えていくことが期待できる  
○人口減少、鉄道による移動ニーズの減少は、コロナの長期化により加速  
○原材料・エネルギー価格の高騰など、依然として現状に留まることが許されない厳しい経営環境  
○このようなことは強く認識する必要がある。

【厳しい経営環境の中でサステナブルな事業運営を実現するため】

- 各事業の強みの磨き上げと、グループ全体の融合と連携をさらに広げ、深めることでより高いレベル、より早いスピードで新たな価値サービスの提供を実現しなければならない。そして鉄道を中心とするモビリティに関する事業と、お客さまの生活ソリューションにつながる事業を早期に5対5を目指す。
- 会社発足以来と述べているが、大きな組織再編が進み、生産性向上による経営体質の強化に向けた現段階での体制を整えていくことになるこの3年間の厳しい経営環境のもとで培ってきた強靭さとしなやかさ、このようなことを土台として、新たな仕事と組織においてお客さまの近い場所で創意を発揮し、課題解決に向け、経営のトッププライオリティである安全を前提に、収益・利益の拡大と大胆な構造改革を進めていく決意である。

皆さんの声を  
お近くのJR東労組役員、  
または、JR東労組のHPまで  
お寄せ下さい！

東労組

重要!

### 夏季手当の議論にあたっての基本スタンス

- 夏季手当の議論にあたっては、**期末決算は黒字を確保**することが出来た。ただ本業の力を示す、**営業利益が目標の1,000億円に届かなかった**ことは冷静に受け止める必要がある。
- 今年度見込んでいる**増収の水準は、依然としてコロナ前の9割程度**に留まっており、**営業費用の増加の要素もある**ことから、**営業利益の見通しはコロナ前の半分程度の水準**を見込んでいる状況である。
- 目標達成のためには、さらなる増収、コストダウンの取組みをはじめ、生産性向上による経営体質の強化に向けた果敢な努力が必要である。社員1人ひとりが変化を恐れず、今までのやり方を大胆に見直すなどの攻めの姿勢で挑戦することで、自分たちの活躍のステージを広げる中で、自分自身が成長し、当社グループの持続的な成長につなげていく。このような大きなモードチェンジを図る必要がある。
- 会社の持続的な発展は、社員還元**のさらなる充実、働きがいの向上、社員・家族の幸福の実現につながっていくことを前提に支給水準については、**直近の業績動向を念頭に、今年度実施した平均5,000円を超える水準の基本給改定等の処遇改善の状況も含めて、総合的に判断**する必要がある。

会社は黒字転換を果たした職場の努力に報いるべきだ！